

## 第5回 全国版 子どもの集い・交流会のアンケート結果

### 1. 参加状況

参加者数：26名

内訳（アンケート協力者26名分）

年齢：20代…11名、30代…4名、40代…7名、50代…4名

性別：女性…23名、男性…3名

参加地域：東海…12名、関西…5名、関東…5名、北海道・東北…2名、  
甲信越…1名、九州・沖縄…1名

参加回数：初回…8名、2回目…9名、3回以上…6名

### 2. 参加動機

- ・昨年参加し、今年も参加したいと思った
- ・精神障害の子どもへの声や支援の現状・情報をしりたかったため
- ・同じ立場の人と意見交換する場がこれまでなかったため
- ・多くの方と繋がり、話を聞きたかったため
- ・同じ苦勞をわかり合えるから
- ・同じ経験・立場の人達と交流することで、自分の励みにしたいと思ったため

### 3. 集いの満足度とその理由

- ・70～89% 5名
  - ・緊張してうまく話すことができなかった。しかし、他の方の話を聞いて元気が出たところもあった。
  - ・思っていたより話せた。共感してもらうことができた。
- ・90～99% 7名
  - ・他の参加者ともっと交流したかった。
  - ・各地の様々な活動を知ることができたのが満足。
  - ・精神障害の子どもが集まるグループも、その種類を選べるようになったんだと実感した。
  - ・午後のゲーム～語り合いが楽しかった。
  - ・安心して話しができて満足したが、少し遠いので-5点。
- ・100%～それ以上 14名
  - ・全国から同じ体験の人が集まる大きな居場所としての居心地は最高です。
  - ・子ども支援の取り組みの実態と本音の話を聞くことができ、また、グループワークで様々な思いや経験を聞け、それらを共有することができたため
  - ・自分の思いを話すことができ、皆が笑顔になる瞬間が幸せだった。
  - ・同じような経験をしている方が多いので、話しやすい。
  - ・子どもの立場の人と出会えた
  - ・有益な情報が得られた。

### 4. 子ども支援の取り組み紹介（全体会）について

- ・親が中心の家族会で諦めがちでしたが、「なければ作ればいいんだ！」という思いになった。
- ・（各地の集いに）参加される方が1桁なのは驚きました。もっと広がっているような居場所が増えるといいなと思った。
- ・各地で取り組みが広がっていることを嬉しく思った。
- ・それぞれの特徴や活動を知ることができて良かった。
- ・困難をかかえた子どもの発信の場が増えていって欲しい。
- ・こうした活動を支えていくために、自分ができることを探していけたらと思う。
- ・この活動の大切さと同じぐらい、続けていくことの難しさも感じた。
- ・しゃれてるイメージで病気への偏見がなくなるといいなと思いました。
- ・長かった。

## 5. 小グループの語り合いの感想

- ・前半・後半に分けてメンバーチェンジしても、違う人と話せるかもしれないと思った。
- ・人数的に情報共有がしやすく、良かった。
- ・状況が似ているところが多く、自分だけじゃないと安心した。
- ・共感できる・してもらえることは、本当に嬉しいことだと感じた。
- ・午前のお話を聞いた後だったので、あまり緊張せず、話すことができた。
- ・子どもの立場の者が話したいだけ安心して話していた感じで、とても良かった。
- ・リラックスして話すことができた。
- ・病気があってもなくても、皆、いろんな葛藤をしていること。
- ・たくさんの勇気もらった。

## 6. 今後の要望

- ・小グループの語らいは残しつつ、手を変え、品を変え、多角的な角度からアプローチを図り、末永く続けてもらえれば
- ・海外での精神医療についての勉強会
- ・受けられる福祉サービスについて
- ・子どもが元気になれるような話
- ・医療的な講演会、母親との関わり方（学習会的なもの）
- ・偏見にどのように対応して要ったらよいか
- ・家族ケアに関する専門家の講演会
- ・ぷるすあるはさんのお話

## 7. 全体を通しての意見・感想

- ・参加者は「大人になってやっと声を上げられるようになった」点が共通していたと思う。リアルタイムで助けを求めている未成年や幼少の子どももいるので、そうした子どもへの支援がいきわたる世の中にしたい。
- ・SNS やマスメディアをうまく使い情報発信を強化すること。
- ・高校などに精神の病を持つ親と暮らす子どもの会のチラシを置けるようにすれば、救われる子どもも増えると思う。
- ・こういう会が継続され、発信する場があることは良いと思った。
- ・継続の難しさを話す方が多かったが、改めて、活動の継続を期待したい。